

公認会計士試験合格 第2号（現役合格第1号）

玉城 航

（JTA初段。2010年度・横浜市立大学体育会テコンドー部主将。24歳。沖縄県名護市出身）

写真準備中

第21回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会（2010年11月28日・後楽園ホール）
無差別級組手に選抜出場した実績をもち、横浜市立大学体育会テコンドー部の主将を務めた
玉城 航が難関の国家資格・公認会計士試験に合格しました。
おめでとうございます！

河明生会長談

「我が日本テコンドー協会の七大精神第2条に、我々は文武両道を志すこと、とあります。
玉城 航は、この精神を具体化する第一歩を踏み出しました。おめでとう！

私が強調したいのは、玉城には、自律心があったことです。
慶応大学や中央大学等は、大学の方針として公認会計士試験に力を入れていますが、
彼の母校はかならずしもそうではありません。
自律心なくして難関の国家資格に挑戦することはできません。

また、難関の国家資格試験合格者を輩出する大学組織には、
長年培われた制度的かつ人的な蓄積があり、他の受験生よりも相対的な優位性があります。
しかし、それがない場合は、心理的かつ経済的な負担は大きかったと推察されます。
彼は、その負担に負けず、短期間で見事合格したのですから、その精神力はすばらしいと考えます。

私は、組手総見等で彼を指導したことがあります。
薫陶を与えている際、
「この若者は良い目をしているな
と観じ、練習後、宮崎名産の焼き鳥を馳走したこともあります。
人づてに、公認会計士試験に挑戦している、と聞いておりました。
思うに、武道師範の醍醐味は、あらゆる分野に有意義な人材を送り出すことにあります。

2013年度千本チルギ終了後、彼に、心の底から
「玉城！ おめでとう！ すばらしい公認会計士になれ！
と激励しました。
その含意は、合格したことに意味があるわけではなく、合格後の活躍、すなわち
その職業的使命や倫理を忘れない立派な公認会計士になれ！
ということです。
かつての目の輝きを忘れずがんばって欲しい。
玉城ならやってくれる。 きっと、バタコも、そう信じているでしょう」